



刊行にあたって

平成7年1月17日、午前5時46分、神戸をはじめ兵庫県南部地域を襲った「阪神・淡路大震災」は、日本で初めての近代的な大都市における直下型大地震であり、未曾有の被害をもたらしました。

改めて、この大震災のいたましい犠牲となられた御霊のご冥福をお祈りし、哀悼の意を表しますとともに、明日へのひたむきな努力を重ねておられる被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

わずか20秒あまりの激震は、神戸市内だけでも4千名を超える尊い生命を奪い、私たちの先人達が営々と築いてきた美しい神戸のまちなみを無残な姿に変え、多くの市民の生活基盤を奪い去りました。

その中で、私たちは人のやさしさや思いやりの大切さを身を持って経験しました。震災直後から国や各都市・各機関だけでなく、内外のボランティアの方々をはじめ、数多くの方々に献身的であたたかい救援活動や励ましをいただきました。「がんばれ神戸」の支援にどれほど勇気づけられたことか、心から感謝いたします。また、震災後、多くの地域では、市民同士の助け合いと冷静沈着な活動によって被害の拡大を防ぐことができました。このことは私たち神戸市民の大きな誇りであります。

神戸市では、この震災の経験から謙虚に学び、その教訓をまちづくりに生かすと共に、市民の英知とエネルギーを結集し、早期に復興のまちづくりに取り組むために、平成7年6月に、神戸市復興計画を策定しました。安全で市民が安心して暮らすことができ、同時に、21世紀の国際都市にふさわしい活力と魅力を備えた都市をめざして鋭意復興を進めているところです。

今回の震災は、大都市直下型地震として過去に例をみない大規模かつ広域の被害であり、長期にわたる救援・復旧活動に際し、既存の概念や制度の枠を超えた対応が求められました。この救援・復旧活動を中心に、神戸市の対応などの事実を正確に記録しておくことが、今後の復興事業や防災対策の基礎資料として参考になるものと考えます。

阪神・淡路大震災から一年が経過したのを機に、市の各部局で保有している震災関連の資料が散逸しないようそれぞれの部局でまとめ、この記録誌として発行いたしました。また、この記録誌は、平成7年度途中までのまとめであり、以降の復興等の記録については、継続して発行する予定にしています。

おわりに、本誌の作成にあたり、貴重な資料を賜りました多くの機関や団体に対し、心より感謝申し上げます。

平成8年1月17日

神戸市長

笹山幸俊